

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 10月号

2017年10月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：大城 将平

(沖縄リハビリテーションセンター病院)

## 研修報告

### ～機能の違いによるポジショニングとソーシャルワーク～ 地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設の役割と期待

那覇市立病院 総合相談センター 伊禮 智則

支援相談員、医療ソーシャルワーカーそれぞれがお互いの施設機能や役割を理解し、地域包括ケアシステムにおける有効な資源として機能を発揮できるように連携方法を確認することを目的に、8/16 沖縄県医師会館にて、見出しの研修が開催された。参加者は MSW35 名、支援相談員及び施設ケアマネが 46 名で計 81 名であった。プログラムは、沖縄県子ども生活福祉部高齢者福祉介護課米須氏より、地域包括ケアシステムにおける老人保健施設の役割、県 MSW 協会樋口氏より入退院支援連携デザイン事業の報告、シルバーピアしきな金城氏より介護老人保健施設の機能と現状、私は医療機関の種類と機能について報告した。後半はグループワークで締めくくられた。

印象的だったのは、米須氏が報告した、2025 年までの各地域の高齢化の状況の統計データで、沖縄県は 2025 年から 2040 に向けて 75 歳以上の方が急激に増えており、2040 年に向けて今のような対策をする必要があるかという指標だった。また、必要とされる介護職員が相当数足りない状況になることも数字でみると危機迫る状況だと改めて感じさせられた。地域包括ケアシステムが進む一方で、いったい何が地域包括ケアシステムであるかという問いも常にある。三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング資料より、地域包括ケアシステムが目指すものは、高齢者が尊厳を保ちながら、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができることと表現されている。米須氏は、2040 年に向けて①中等度者の予防、②団塊の世代をいかに看取るかが重要になると述べ老健には在宅復帰支援強化と地域づくりが求められると期待した。地域づくりの視点が今後は重要になると感じ医療機関も老健もその地域づくりの一端を担っているという意識が必要になると感じた。さまざまな場での参画その積み重ねが地域づくりであり、地域をつくるということは、機関や職種で支援の線を引くのではなくその支援のグレーゾーンをどうつぶしていくのか、ケースごとに状況に合わせた役割分担、ポジショニングができるようにすることが必要だと感じさせられた。

#### ◆ c o n t e n t s ◆

老健施設との勉強会	1
南部圏域からの報告	2
運営委員会議事録／各部会報告	2
コラム	4

**平成 29 年度 在宅医療・介護連携推進事業**  
**「地域の救急現場を通じて医療と介護の多職種連携を考えよう！」**

大浜第二病院 医療福祉課 古見 寛子

南部地区医師会主催の本研修は各消防署管轄別に開催されており、8月21日（月）豊見城市対象の研修会へ参加してきました。豊見城市消防署をはじめ、市内の医療機関・介護施設・行政などから、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事業所管理者などが93名の参加者がありました。

第Ⅰ部パネルディスカッションで現状と課題の報告がありました。消防署からは、ここ5年間で救急出動件数が増加、施設からの搬送者は一般に比べ重症者割合が高い現状と、情報が不足していることが課題で、『情報提供書』のひな型を消防署で作成し普及に取り組みたいとの報告がありました。有料老人ホーム（住宅型）は、夜間人員が少なく、緊急搬送時に救急車へ職員が同乗できず、サマリーを渡す対応をしていること、緊急時家族と連絡がとれないことや身寄りがない方への対応が課題との報告でした。救急病院からは、“救急”とは何でも・早く診てもらえると誤解されがちだが、正しく理解してほしい、重症化する前に日中で受診をさせることが提起されました。

第Ⅱ部グループワークで「医療と介護の連携における課題と取り組めること」について意見交換が行われました。私のグループでは、◆救急受診するかを施設で判断ができる職員がいない、◆看取りの体制ができていないのは人材不足や教育体制が課題、◆施設で終末期（看取り）の方針を切り出すと信頼関係が崩れてしまうのではと不安、◆受診時に持参される情報がない（少ない）、との意見ができました。会場全体では、取り組めることとして◆情報書を普段より準備しておく、◆施設職員の早期発見や看取り教育、◆嘱託医が施設を支援・教育できるしくみづくり、などの報告がありました。

どの分野とも限られた人材・資源の中で、“地域で生活することを支えていけるか”が大きなテーマでした。今後も継続的に意見交換ができるような場が必要であり、各職種・機関が学び、成長していけるよう地域全体で取り組めたらよいと思いました。

## 運営委員会／各部門報告

### 平成 29 年 9 月 理事会 議事録

開催日時	2017（平成 29）年 9 月 19 日（火）18:30~20:00
場 所	那覇市立病院 1 階
出席者	島袋、樋口、當銘（司会）、仲地（記録）、香村（連絡）、又吉、新垣、石郷岡

#### 【各部会報告】

##### 1. 研修部（香村）

###### ◆初任者研修

・10月1日（日）9:00 受付 9:30~17:00 場所：仲地胃腸内科クリニック

テーマ・講師：アセスメント・・・島袋恭子（那覇市立病院）

記録について・・・泰克之（中頭病院） 當銘由香（大浜第一病院）

退院援助・・・伊禮智則（那覇市立病院）

◆中堅者研修（参加対象：経験5年以上）

- ・ 11月19日（日）9:30受付 10:00~17:00 場所：那覇市立病院
- ・ 内容：ISTTを学ぶ
- ・ 講師：小原真千子先生 / 福山和女先生

◆めだかの学校

- ・ 10月18日（水）19:00～ 場所：ハートライフ病院
- ・ 内容：社会福祉協議会について（与那原町社協）

◆めだかの放課後

- ・ 9月22日（金）19:00～ 場所：中頭病院
- ・ 10月19日（木）19:00～ 場所：中頭病院

◆OGSV

- ・ 10月11日（水）18:30～ 場所：那覇市立病院
  - ・ 内容：長崎大会予演（當銘：大浜第一病院・宮城：有料老人ホームハートライフ）
- ※OGSVの日程は今後要検討。

◆めだかのホームルーム

- ・ 10月はお休み
- ・ 11月2日（木）19:00～ 場所：調整中
- ・ 事例検討会：事例提供者（沖縄協同病院：玉那覇）

◆中堅者研修 長崎大会 11月24日（金）25日（土）26日（日）

- ・ 参加者：望月、當銘、宮城、香村、安慶名
- ・ 発表は宮城さんと當銘さんの2演題 ※あと一演題は香村にて調整中

2. 広報部（仲地）

MSW ニュース印刷後、現物を大浜第一病院へ郵送してもよいか？郵送費は協会持ちでよいか？

→印刷にかかる費用と一緒に郵送代を請求することで承認

<ホームページ>

- ・ デザイン事業のガイドライン（PDF）をアップする。10月更新時にアップ予定。

<今後の編集担当>

9月ニュース 編集担当・中徳 与儀さん

10月号ニュース 編集担当・沖リハ 大城さん

11月号ニュース 編集担当・南部病院 長さん

3. 社会活動部（欠席）

#### 4. 渉外（樋口）

- ・「難病のある人の福祉サービス活用による就労支援シンポジウム」>チラシを定期郵送物に同封  
日時：10月22日（日）13:00～ 場所：ゆいホール
- ・ハンセン病市民学会  
日時：H30年5月19日・20日に沖縄で開催予定  
9月10日（日）午前：企画委員会、午後：実行委員会に樋口が参加  
分科会テーマ案：医療と介護問題について>>具体的な支援に繋がるアクションを提示
- ・沖縄県SW協議会より  
第6回ソーシャルワーク学会&社会福祉公開セミナー  
2018年2月24日（土） 場所：沖縄国際大学
- ・平成29年度入退院支援連携デザインに係る研修
  - ・第1回デザイン事業 専門職研修  
10月28日（土） 場所：医師会館
  - ・第2回デザイン事業 研修  
12月23日（土）
  - ・第3回 デザイン事業 研修  
1月13日（土）
  - ・第4回 臨床倫理（予定）※調整中

<今年度の予定>

- \* 医療基本法 ※調整中
- \* 相談の質は次年度で調整する

- ・デザイン事業 南部地区リーダー 沖縄協同病院 新垣さん・南部病院 長さん

#### 5. 事務局（當銘）

- ・入会者（2名）  
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
- ・移動（0名）

#### 6. その他

~研修案内~

2017年度「人権擁護とソーシャルワーク」研修

2017年12月17日（日）9:30～16:30

場所：九州医療センター

対象：HIV陽性者への支援経験あるまたは今後可能性のあるソーシャルワーカー、  
ケアマネージャー、看護師等医療福祉介護従事者

集期間：2017年9月4日～10月6日

定員：70名

9月30日（日）13:00~17:00

第16回沖縄ウインドマネジメント研究会

講演：県立中部病院 高山 義浩先生

場所：県立南部医療センター

10月9日（日）初級コンチネンスセミナー

樋口会長が社会資源の講義を行う

#### 【次回の理事会】

日時	10月16日（月）18:30~
場所	那覇市立病院
担当	司会：樋口 書記：香村 連絡係：島袋

### はいさいワーク No. 84

事業所名	沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
応募資格	社会福祉士免許取得者または、社会福祉士免許取得の見込みの者
雇用形態	詳細は当協会ホームページを参照
勤務時間	平日 8:30~17:00、土 8:30~12:30
担当者	沖縄協同病院 事務管理部 後藤
連絡先	098-853-1200

### コラム

---

#### 初心忘れるべからず

---

「あんたに任せるさあ〜」

高齢の患者様・ご家族へ更生医療や身障手帳の制度、申請に伴うメリット・デメリットを説明し、申請希望確認を行った際、「私が聞いても難しいことは分らんさ。あんたに任せるよ」と言われたことがある。その後はこれと言って問題なく、ご家族へ説明した後、申請希望を確認した。

本人へ説明したけど、本人の理解度に合わせた説明ができなかった。本人の理解度や対処能力のアセ

メントが不足し、その能力に応じた説明の仕方がSWとしてできなかった。最初からご家族へ説明を行っていれば一回で終わったはずだ。しかし、ご家族にも「お任せします」と言われる時もある。その時に自分の説明が不十分だったのか、患者様・ご家族の意思決定能力が低いのか毎回考えさせられる。

先輩方は言い回し方や表現法が多彩で、患者様・ご家族のニーズの引き出し方が上手く勉強になる。が、いざ自分も同じ表現や言い回しを使おうにも経験の差からか上手く言えない。言葉では「大丈夫」と言っているが、表情は不安な顔だったりした時は自分の力不足を実感する。ある時、先輩のアドバイスで「知っていることと出来ることは別」と言われたが、まさにその通りと感じた時だ。

エジソン（だったと思う）の言葉で『失敗は上手くいかない手順の確認作業』という発言がある。最近の私の中での名言である。

日々業務で沢山失敗をしている。これからも失敗していこう。その中でどれだけ『失敗の確認作業』を意識できるか、先輩方のアドバイスを吸収できるか。初心を忘れないようこれからも業務に励んでいく。

担当 M.T

## お知らせ

今月の「トピック」「新入会員」「福祉の窓」はお休み致します

## ◆編集後記◆

今回初めて編集を担当させて頂きました。歴代の先輩方が試行錯誤しながら現在の形をつくりそして最初から最後までサポートして頂いたおかげで無事発行することができました。感謝です！

また、忙しい中にもかかわらず研修報告やコラムを書いて頂いた協会会員の方もありがとうございました。

10月に入ってもまだまだ暑い沖縄ですが、少しずつ肌寒い日も増えてきますので皆様体調には気を付けながら参りましょう！ 今年も残り3か月！

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ  
<http://www.msw-oaswhs.jp/>